

研究ノート

小学校社会科第6学年国際理解学習の現状と課題
—教科書とデジタル教科書の内容と資料の分析を中心として—

松井克行

(西九州大学子ども学部子ども学科)

(平成29年1月5日受理)

**Current Status and Problems of international understanding study in social studies at the
6th grade of elementary school : As case of analysis conducted by focusing on the
text and materials in the textbook and digital textbook**

Katsuyuki MATSUI

(Department of Children's Studies, Faculty of Children's Studies, Nishikyushu University)

(Accepted January 5, 2017)

研究ノート

小学校社会科第6学年国際理解学習の現状と課題 －教科書とデジタル教科書の内容と資料の分析を中心として－

松井克行

(西九州大学子ども学部子ども学科)

(平成29年1月5日受理)

Current Status and Problems of international understanding study in social studies at the 6th grade of elementary school : As case of analysis conducted by focusing on the text and materials in the textbook and digital textbook

Katsuyuki MATSUI

(Department of Children's Studies, Faculty of Children's Studies, Nishikyushu University)

(Accepted January 5, 2017)

Abstract

The purpose of this paper is to show the current status and problems of international understanding study in social studies at the 6th grade of elementary school. Analysis subjects are the text and materials in the textbook and digital textbook, "New Society in new edition's at the 6th grade (the later part)" printed by Tokyo syoseki, which is the most popular social studies textbook in Japan.

The current status of international understanding study in social studies at the 6th grade of elementary school are as follows.

- 1) The learning is planned of four countries, USA, People's Republic of China, South Korea and Saudi Arabia in the textbook and digital textbook.
- 2) The textbook's writer intentionally characterizes four countries as follows:
USA : the universal model of the contemporary culture in globalization.
People's Republic of China : the neighboring country tied versatily in the history, culture and economy.
South Korea: Cultural exchange to Japan is prosperous historically and the divided nations.
Saudi Arabia : Representative oil-producing country and Muslim (Islamic) country.

The problems of international understanding study in social studies at the 6th grade of elementary school are as follows.

- 1) In danger of having a stereotypic national image.
- 2) Not drawn the negative side of the culture including the sexism.

Key words : Social studies at the six grade of elementary school 小学校第6学年社会科
International understanding study 国際理解学習
Analysis in the textbook 教科書分析
Analysis in the digital textbook デジタル教科書分析

1. はじめに

小学校社会科における国際理解学習は、伝統的に「学習指導要領」が同心円拡大論によるカリキュラム編成論に拠っているため、第3・4学年で地域社会（市町村と都道府県）、第5学年で国土（日本）と産業学習、第6学年で日本史と政治と国際社会というように、扱う社会の単位が徐々に拡大していく。それゆえグローバル化の進んだ現代社会においても、最終の第6学年のしかも後半で政治学習と共に駆け足で学習されるという不十分な状況にある。しかも、社会科の配当時間は今後も増加が見込めない以上、この状況は今後も是正されない可能性が高い。

もちろん、この状況を打破すべく、第5学年の農業学習の一環でTPP問題を扱う等の先進的実践が見られるが少数に留まる¹。従って、たとえ配当時間は短くとも、第6学年の社会科国際理解学習を充実させていくことが肝要であろう。

他方、ICT教材の日進月歩の開発により、デジタル教科書の普及がめざましい。デジタル教科書の性格について、岡崎（2013a, b）の先行研究によれば、「教師用デジタル掛図という位置づけで、デジタル教科書が開発され市販されている。これらは、既存の教科書の見開きページを構成の基本としており、プロジェクターを活用した学習者への掲示用のデジタル教材という性格を有している²」。また、岡崎（2013a, b）の研究的意義は、「現行の教科書のほとんどの構成単位は、本文の説明として関連づく構造的関係によって成立しており、紙媒体の上で資料均衡の構成を目的にしているものの、関連づけられる資料不足の状況を生んでいる³」という現状の課題を、小学校第5学年「農業」、「水産業」単元に関する4社の教科書記述内容の分析を通じ明らかにした点にあり（岡崎：2013a）、教科書本文との関係で「不足する資料を関連づけて補う」ことを社会科デジタル教科書の設計・開発の指針とすべきことを提言している（岡崎：2013b）。

換言すれば、岡崎の研究は、小学校第6学年「国際理解学習」を対象とはしておらず、また、教科書本文との関係でデジタル教科書が「不足する資料を関連づけて補う」ことの必要性を述べるだけで、デジタル教科書所収の動画資料の分析には至っていない。

そこで本小稿では、教科書本文との関係で、岡崎の分類では「関連する資料が多く本文に対して説明

の追加が必要な構成（資料優位の関係）」であると想定される、小学校第6学年「国際理解学習」に関する教科書記載内容と資料（デジタル教科書所収の動画を含む）を研究対象とし、教科書本文と資料の分析から、いかなる「国際理解学習」が想定されているのか、さらにデジタル教科書所収の動画資料を組み合わせることにより、現状では、いかなる「国際理解学習」が可能で、いかなる課題が残されているのかについて解明する。その際、岡崎のように本文の1センテンスごとの細分的な量的分析研究ではなく、あくまで教科書記載の本文と資料、さらに所収の動画に含まれる学習内容項目を抽出し、分析を行う。「国際理解学習」では、何を学習内容とし何を捨象するか、という内容面が重視されるからである（例えば、対象国のいかなる文化的情報を取捨選択するかによって、全く異なる認識が形成されるからであり、極端に言えば、「国際理解」を深めるか「国際誤解」を深めるかは、内容面に依存する）。

以下、本稿では、第2章で、教科書内容の基となる小学校社会科「学習指導要領」における「国際理解学習」の内容を押さえ、第3章で、「学習指導要領」を補完する『指導要領解説』の記載内容を詳細に分析する。続く第4章では、『指導要領解説』の統制を受けた教科書記述の実態について、現在、日本で最も多く使用されており、市場占有率50%を超える代表的教科書である『新編 新しい社会科6下』（東京書籍）のデジタル教科書を取り上げ、その内容分析を行い、小学校社会科第6学年「国際理解学習」の現状と課題を解明する⁴。

2. 現行「学習指導要領」における第6学年社会科国際理解学習の現状

現行の小学校社会科「学習指導要領」（平成20年版）は、第6学年の「2 内容(3)」で、広義の国際理解学習について、次のように規定している（「表1」参照）。

「表1」の記載内容より、広義の「国際理解学習」は、狭義の「国際理解学習」（日本とつながりが深い国の人々の生活の様子学習）と「国際交流学習」、「国際協力学習」、「国際連合学習」に区分できる。本稿では、紙幅の関係より、以下、狭義の「国際理解学習」に絞り、分析を進めることとする。

「学習指導要領」の「内容の取扱い」の記載内容より、「我が国と経済や文化などの面でつながりが

表 1. 社会科「学習指導要領」における国際理解学習の内容

2 内容
(3) 世界の中の日本の役割について、次のことを調査したり地図や地球儀、資料などを活用したりして調べ、外国の人々と共に生きていくためには異なる文化や習慣を理解し合うことが大切であること、世界平和の大切さと我が国が世界において重要な役割を果たしていることを考えるようにする。
ア 我が国と経済や文化などの面でつながりが深い国の人々の生活の様子
イ 我が国の国際交流や国際協力の様子及び平和な国際社会の実現に努力している国際連合の働き

「小学校学習指導要領 第2章 第2節 社会」より関係する部分を抜粋表示した。下線部は筆者による。

表 2. 社会科「学習指導要領」における狭義の国際理解学習の内容の取り扱い

3 内容の取扱い
(3) 内容の(3)については、次のとおり取り扱うものとする。
ア アについては、我が国とつながりが深い国から数か国を取り上げる。その際、それらの中から児童が一国を選択して調べるよう配慮し、様々な外国の文化を具体的に理解できるようにするとともに、我が国や諸外国の伝統や文化を尊重しようとする態度を養うこと。
イ イの「国際交流」についてはスポーツ、文化の中から、…略…、それぞれ選択して取り上げ、国際社会における我が国の役割を具体的に考えるようにすること。
エ ア及びイについては、我が国の国旗と国歌の意義を理解させ、これを尊重する態度を育てるとともに、諸外国の国旗と国歌も同様に尊重する態度を育てるよう配慮すること。

「小学校学習指導要領 第2章 第2節 社会」より関係する部分を抜粋表示した。下線部は筆者による。

深い国の人々の生活の様子」については、教員の側で、「我が国とつながりが深い国から数か国を取り上げ」た上で、「児童が一国を選択して調べる」学習活動を行う。次に、「国際交流」については、「スポーツ、文化の中から、それぞれ選択して取り上げ、国際社会における我が国の役割を具体的に考え」させる学習活動を行う。

但し、前者における具体的な国選択や、後者における具体的なスポーツ選択や文化選択についての記載はない。これらに関する指針が、『指導要領解説』に書かれている可能性があるため、次章では『小学

校学習指導要領解説社会編』の記載内容の分析を行う。

3. 『小学校学習指導要領解説社会編』の記載内容の分析

法的強制力は無いものの、事実上、教科書執筆者や教員による教材開発や授業実践に多大な影響力を持つのが、「学習指導要領」作成に携わった教育関係者等が執筆した『指導要領解説』である。そこで本章では、その記載内容を考察する。

表 3. 『小学校学習指導要領解説社会編』における「国際理解学習」の内容

「世界の中の日本の役割」とは、世界の国の人々と相互に理解を深め合い、平和な国際社会の実現を目指して、我が国が国際社会の中で果たしている重要な役割を指している。
「次のこと」とは、「我が国と経済や文化などの面でつながりが深い国の人々の生活の様子」「我が国の国際交流や国際協力の様子及び平和な国際社会の実現に努力している国際連合の働き」の二つを指している。これらは、世界の中の日本の役割について学習する際に調べる具体的な対象である。
「調査したり地図や地球儀、資料などを活用したりして調べ」とは、ここでの学習の仕方を示している。ここでは、学校図書館や公共図書館、インターネットを活用したり、地域の留学生や外国人から聞き取り調査したりする活動などを通して具体的に調べ、我が国とつながりが深い国の人々の生活の様子、文化や習慣の違いについて理解を深めるようにすることが大切である。我が国の国際交流…略…についての学習は、ややもすると網羅的、抽象的になりがちである。ここでは、具体的事例を取り上げ、調査や資料の活用を中心とした学習が展開できるようにする。また、地図や地球儀の活用については、地図帳や地球儀を用いて我が国と経済や文化などの面でつながりが深い国の名称と位置を確認したり、日本から見た方位などを調べたりすることを通して、地図帳や地球儀を活用する能力を育てるとともに、世界の国々や地域に関心をもつようにする。
「外国の人々と共に生きていくためには異なる文化や習慣を理解し合うことが大切であること」を考えるようにするには、我が国と経済や文化などの面でつながりが深い国の人々の生活の様子を調べることによって、外国の人々の文化や習慣の違いに触れ、その違いを理解し尊重することが、外国の人々と共に生きる上で大切であることを考えることができるようにすることである。その際、これまでの学習で身に付けた自国に対する理解との関連を図りながら、外国の異なる文化や習慣を適切に理解できるように配慮する必要がある (pp. 94-95)。

「ここでは、世界の中の日本の役割について学習する際に、外国の人々と共に生きていくためには異なる文化や習慣を理解し合うことが大切であることを考える手掛かりとして、我が国と経済や文化などの面でつながりが深い国の人々の生活の様子を調べる対象として挙げている。ここに示された事項について指導する際には、次のことをおさえる必要がある。

「我が国と経済や文化などの面でつながりが深い国の人々の生活の様子」について調べるとは、貿易や経済協力などの面、歴史や文化、スポーツの交流などの面で我が国とつながりが深い国を取り上げ、それらの国の人々の生活の様子を具体的に調べることである。

人々の生活の様子については、例えば、衣服や料理、食事の習慣、住居などの衣食住の特色や、国民に親しまれている行事、学校生活や子どもの遊び、あいさつの仕方やマナー等の習慣などを取り上げることが考えられる。これらの学習を通して異なる文化や習慣を理解し関心を深めるようにすることは、外国の人々のものの見方や考え方を理解し、尊重することにつながるものである。

実際の指導に当たっては、教師が我が国とつながりが深い国から数か国を取り上げ、その中から、児童一人一人が自らの興味・関心や問題意識などに基づいて、調べる国を一か国選択して調べるように配慮することが必要である。その際、児童が選んだ国によって調べる資料の量などに大きな違いが生じることのないように、教師は個に応じた適切な指導を心掛けることが大切である。また、外国語活動での異なる文化をもつ人々との交流体験を生かすなどして、外国の文化を具体的に理解できるようにし、それを通して我が国や諸外国の伝統や文化を尊重しようとする態度を養うことが大切である。

これらの学習を通して、外国の人々と共に生きていくためには、異なる文化や習慣を理解し合うことが大切であることを考えることができるようにする」(p.95)。

ここでは、世界の中の日本の役割について学習する際に、世界平和の大切さと我が国が世界において重要な役割を果たしていることを考える手掛かりとして、我が国の国際交流…略…を調べる対象として挙げている。ここに示された事項について指導する際には、次のことをおさえる必要がある。

「我が国の国際交流や国際協力の様子」について調べるとは、我が国がスポーツや文化を通して国際交流を行っている様子を取り上げ、我が国は世界の人々と互いに親善や理解を深めていることを調べること…略…を調べることである。

(略)

実際の指導に当たっては、「国際交流」についてはスポーツ、文化の中から、…略…それぞれ選択して取り上げるとともに、…略…学習が具体的に展開できるように工夫する必要がある。例えば、地域の留学生や外国で生まれ育った人、青年海外協力隊の元隊員などから話を聞いて調べる活動や、…略…インターネットを活用して必要な資料を収集して調べることなどが考えられる。

これらの学習を通して、我が国や日本人が、過去の戦争や原爆による人類最初の災禍などの経験を生かして国際社会の平和と発展のために、今後、果たさなければならぬ責任と義務が重いものであることに気付くようにするとともに、世界平和の大切さと我が国が世界において重要な役割を果たしていることを考えることができるようにする」(p.96)。

(内容の取扱い)

内容の取扱いの(3)のアは、内容の(3)のアの「我が国とつながりが深い国の人々の生活の様子」に関する指導において、取り上げる国の数とその選択の仕方、及び指導上の配慮事項を示したものである。

内容の(3)のアでは、我が国と経済や文化などの面でつながりが深い国の人々の生活の様子を調べて、外国の人々と共に生きていくためには異なる文化や習慣を理解し合うことが大切であることを考えることをねらいとしている。そのために、例えば、我が国とつながりが深い国から教師が三か国程度取り上げ、その中から児童一人一人が自らの興味・関心や問題意識に基づいて一か国を選択して自分の力で調べることができるようにすること、取り上げる国が特定の地域に偏らないようにすることなどに配慮することが大切である。

その指導に当たっては、例えば、外国語活動における外国の人々との交流体験で出会った外国人を招き話を聞く活動が考えられる。また、それぞれの児童が選択して調べた国の人々の生活の様子を互いに発表し考えたことを伝え合う場を設けることも有効である。その際、外国の文化の理解を通して、我が国や諸外国の伝統や文化を尊重しようとする態度を養うようにすることが大切である。

内容の取扱いの(3)のイは、内容の(3)のイの「国際交流」と「国際協力」について学習する際に、取り上げる事例の範囲と配慮事項を示したものである。

「国際交流」については、オリンピックや国際競技会などのスポーツによる国際交流や、歌舞伎や能、邦楽の演奏などの海外公演、海外での柔道や剣道などの我が国の伝統的武道の紹介、外国の絵画や舞踊、音楽などの日本での展覧会や公演など文化による国際交流を取り上げることが考えられる(以下、省略)。それらを具体的に調べることを通して、国際社会における我が国の役割を具体的に考えるようにする(以下、省略)。

文部科学省『小学校学習指導要領解説社会編』東洋館出版社、2008年、pp.94-96より関係する部分を抜粋表示した。下線部は筆者による。

狭義の「国際理解学習」(「日本とつながりが深い国の人々の生活の様子」の学習)と「国際交流学習」に関する上記の『指導要領解説』の内容は、以下のようによまとめられる。

(1)「日本とつながりが深い国の人々の生活の様子」の学習については、第一に、「学校図書館や公共図書館、インターネットを活用したり、地域の留学

生や外国人から聞き取り調査したりする活動などを通して具体的に調べ、我が国とつながりが深い国の人々の生活の様子、文化や習慣の違いについて理解を深めるようにする」と、調べ学習やインタビュー（聞き取り調査）を奨励している。但し、この学習方法に関する指摘は、あくまで例示に留まることより、後で分析を行う教科書の記載内容に基づき、補足的にインターネットや図書、あるいはデジタル教科書の動画情報（例：外国の学校見学や外国人の自宅訪問とインタビューのやり取りを示した動画）から情報を入手することにより学習することが可能である（疑似体験、疑似インタビュー等の視聴を通して）。現在の教科書記述の情報量は充実している（但し、質においては課題がある）。

第二に、調べ学習を通して、「外国の人々の文化や習慣の違いに触れ、その違いを理解し尊重することが、外国の人々と共に生きる上で大切であることを考えることができるようにすることである」として、異文化や異なる習慣に対し、違いを尊重することを求めている。自文化とは異なる異文化を、珍奇なもの、劣ったものと見なすのではなく、「文化相対主義⁵」の基に理解し、尊重するのである。さらに、「その際、これまでの学習で身に付けた自国に対する理解との関連を図りながら、外国の異なる文化や習慣を適切に理解できるように配慮する必要がある」とされている。ここで重視すべきは、「自国に対する理解との関連」を図ることの重要性である。例えば、イスラム教を異文化として学ぶ際に、歴史学習で学んだ仏教やキリスト教という宗教と関連させて理解するのである。具体的な習慣や考え方は、宗教ごとに大きく異なりうるが、人間の精神的な拠り所としての宗教という面では共通であり、自国の宗教に対する理解との関連を図ることができるからである。

第三に、「我が国と経済や文化などの面でつながりが深い国の人々の生活の様子」について調べるとは、「貿易や経済協力などの面、歴史や文化、スポーツの交流などの面で我が国とつながりが深い国を取り上げ、それらの国の人々の生活の様子を具体的に調べること」としている。但し、この条件のどれかを満たす外国の候補は数多く存在し、「つながりが深い」か「浅い」かの判断基準も示されていないため、教員の選択の幅は非常に広いといえる。但し、広すぎてかえって国の選択に困惑するのではなからうか。例えば、後述の教科書記載の4か国（アメリ

カ合衆国、中国、韓国、サウジアラビア）に落ち着く教員も少なくないと思われる（但し、『指導要領解説』では、「例えば、我が国とつながりが深い国から教師が三か国程度取り上げ」として、4か国ではなく3か国を取り上げることが例示されている。もちろん例示ゆえ候補は4か国以上でも構わない）。

第四に、「人々の生活の様子」については、「例えば、衣服や料理、食事の習慣、住居などの衣食住の特色や、国民に親しまれている行事、学校生活や子どもの遊び、あいさつの仕方やマナー等の習慣などを取り上げることが考えられる」と記載されている。「衣食住」、「行事」、「学校生活」、「遊び」、「あいさつ」、「マナー」等が、学習内容として例示されているのである。

(2)「国際交流学習」では、「網羅的、抽象的になりがち」であることより、「具体的事例を取り上げ、調査や資料の活用を中心とした学習が展開できるようにする」とある。具体的事例に関しては、「オリンピックや国際競技会などのスポーツによる国際交流や、歌舞伎や能、邦楽の演奏などの海外公演、海外での柔道や剣道などの我が国の伝統的武道の紹介、外国の絵画や舞踊、音楽などの日本での展覧会や公演など文化による国際交流を取り上げること」と、学習内容が提示されている。

(3)さらに、両者の学習に共通するのが「地図や地球儀の活用については、地図帳や地球儀を用いて我が国と経済や文化などの面でつながりが深い国の名称と位置を確認したり、日本から見た方位などを調べたりすることを通して、地図帳や地球儀を活用する能力を育てるとともに、世界の国々や地域に関心をもつようにする」ことである。但し、地図や地球儀の活用は、第5学年までの既習事項であり、その学習内容は、もっぱら地図や地球儀に関する資料活用能力の復習であり、さらに児童の世界の国々や地域への「関心・意欲」を高める副次的効果をも目指している。もちろん、これらの学習活動により、各国の名称と位置、日本から見た方位等を覚えることから、世界の国々や地域への「関心・意欲」を高める児童もいるが、国や地域の名と形や位置という表面的な知識にのみ「関心・意欲」が留まる児童や、地図や地球儀に興味を示さない児童も想定され、なかなか筋書き通りに事が運ぶとは考えにくい。

(4)「取り上げる国が特定の地域に偏らないようにすることなどに配慮すること」と記載されている。この記載内容によれば、後述の教科書記載の4か国

(アメリカ合衆国, 中国, 韓国, サウジアラビア)のうち3か国がアジアに偏っているとも考えられる。少なくとも東アジアでは, 中国と韓国のどちらか1か国として, ロシアまたはヨーロッパの国, オーストラリア, ブラジル, コートジボワールまたはガーナ(カカオ豆輸出)等, アジア以外の地域から候補国を取り上げる方がよいだろう。

4. 東京書籍版の社会科教科書『新編 新しい社会』(6下)の学習内容の分析

(1) 単元「日本とつながりの深い国々」の概要

東京書籍版の社会科教科書『新編 新しい社会』(6下)では, アメリカ合衆国, 中国, 韓国, サウジアラビアの4か国を取り上げている。

以下に示すのが, 教科書会社の東京書籍が提示している教科書準拠のモデル単元「日本とつながりの深い国々」(全6時間)の単元指導計画である(表4)。

第1時「日本とつながりの深い国を探そう」

第2時「調べる国を決めよう」

第3時～第5時「各国の学習」(児童に4か国から1か国を選択させる)・国によって, 調べる観点が異なっており, 比較困難。

第6時「調べてきたことの発表会, 意見文を作成し発表」

(発展学習; 1～3時間。教科書で取り上げた4か国以外の国を調べる場合はブラジル, EU, アフリカを想定。但し, ブラジル以外は国を超えた地域であり, 国選択において粗雑さが目立つ。)

表4. 東京書籍版の社会科教科書『新編 新しい社会』(6下)の単元指導計画 (下線部:筆者)

1 日本とつながりの深い国々		6時間/p.58~91			
目標	<p>■我が国と経済や文化などの面でつながりの深い国について, 人々の生活の様子に関心をもって調べ, 外国の人々とともに生きていくためには, 異なる文化や習慣を理解し合うことが大切であることを理解するとともに, 異なる文化や習慣を尊重しようとする。</p> <p>□我が国と経済や文化などの面でつながりの深い国の人々の生活の様子から学習問題を見だし, 調査したり, 地図や地球儀, 各種資料を活用したりして調べたことを白地図や作文などにまとめるとともに, 文化や習慣を比較することを通じて, 異なる文化や習慣を理解し合うことが大切であることを考え, 適切に表現する。</p>				
評価規準	<p>・社会的事象への関心・意欲・態度</p> <p>①我が国と経済や文化などの面でつながりの深い国の人々の生活の様子に関心をもち, 外国人や外国での生活経験がある人に進んで話を聞いたり, 関連する資料を収集したりして意欲的に調べる。</p> <p>②文化や習慣を比較することを通じて, 異なる文化や習慣を尊重しようとしている。</p> <p>・社会的な思考・判断・表現</p> <p>①我が国と経済や文化などの面でつながりの深い国の人々の生活の様子について, 学習問題や予想, 学習計画を考え, 表現する。</p> <p>②我が国とつながりの深い国の文化や習慣を比較することを通じて, それぞれに大切にしている文化や習慣があること, 外国の人々とともに生きていくためには異なる文化や習慣を理解し合うことが大切であることについて考え, 適切に表現している。</p> <p>・観察・資料活用の技能</p> <p>①我が国と経済や文化などの面でつながりの深い国の人々の生活の様子に関心をもち, 外国人や外国での生活経験がある人に進んで話を聞いたり, 地図や地球儀, 各種資料を活用したりして必要な情報を集め, 特色のある文化や習慣, 我が国とのつながりなどを読み取っている。</p> <p>②調べたことを白地図や作品, ノートなどにまとめている。</p> <p>・社会的事象についての知識・理解</p> <p>①我が国と経済や文化などの面でつながりの深い国の人々の生活の様子や, それぞれの国には大切にしている文化や習慣があることがわかっている。</p> <p>②外国の人々とともに生きていくためには, 異なる文化や習慣を理解し合うことが大切であることが分かっている。</p>				
	本時のめあて	○おもな学習活動	・内容	指導上の留意点	評価計画
学習問題をつかむ	①日本とつながりの深い国を探そう (p.60~61)	○外国から入ってきた身のまわりのものや文化を出し合い, 日本とつながりの深い国について話し合う。	・野球はアメリカからきた。	生活経験やこれまでの学習経験をもとに, 日本とかわりがある国とかわり	〈関意態①〉 外国に対する興味や関心を高め, 進んで調べようとしている。
		・日本の歴史は中国からたくさんえいきょうを受けてきた。	・韓国のキムチは日本でも食べられている。		
		・サウジアラビアから石油を輸入している。			

<p>外国から入ってきた身のまわりのものや文化を出し合い、日本とつながりの深い国を四つあげて、話し合しましょう。 (1時間)</p>	<p>・ブラジルから多くの人が日本に来ている。 ○つながりが深そうな国を四つに整理してみよう。</p> <p>身のまわりには外国から入ってきたものがたくさんあり、日本は外国と深いかわりがある。①</p>	<p>方を出させ、自分の生活が外国とかわりがあることに気づかせる。</p>		
<p>②調べる国を決めよう (p.62~63)</p> <p>学習問題をつくり、日本とつながりの深い国から1か国を選び、人々の生活について調べる学習計画を立てましょう。 (1時間)</p>	<p>○調べる国を決め、その国の人々の生活の様子を調べる計画を立てる。 ・共通して調べることを、関心によって調べることを分けて考えよう。 ・服装や住居の特色、料理やマナー、学校生活については共通して知りたい。 ・世界遺産がどこにあるのか調べよう。 ・インターネット、本のほかに、その国から来た人や住んでいたことがある人を探そう。 ・まとめ方はどうしたらいいかな。</p> <p>学習問題 日本とつながりの深い国の人々は、どのような生活をしているのでしょうか。1か国を選んで調べ、発表しましょう。</p>	<p>かわりが深い国の中から、自分で調べたい国を一つ選ぶ時、調べる視点と方法の見直しをもたせるようにする。</p>	<p>〈思判表①〉我が国とつながりが深い国の人々の生活の様子について、学習問題について予想し、調べる計画を考え、表現している。</p>	
<p>*児童に4か国から1か国を選択させる。</p>				
<p>アメリカと日本 p.64~69</p>				
<p>調べる</p>	<p>③アメリカの学校の様子 (p.64~65)</p> <p>アメリカの小学生は、どのような生活をしているのでしょうか。 (1時間)</p>	<p>○アメリカの学校の様子について、メールやインターネットでアメリカに住んでいる人に質問をしたり、集めた資料を活用したりして調べる。 ・小学校への通学は、徒歩、自転車、スクールバスなどがある。 ・成績が良い場合は上の学年に飛び級できることもある。 ・いろいろな人種や民族の子どもが通っている。先住民の文化や言葉を学ぶことができる学校がある。 ・日本の学校と同じところやちがうところがある。</p> <p>アメリカの学校と日本の学校では、同じ点やちがう点がある。③</p>	<p>日本の学校と違うこと、似ていることを意識させながら調べさせる。</p>	<p>〈技能①〉学校の様子について、メールでアメリカに住んでいる人に質問をしたり、集めた資料を活用したりして、特色や違いを読み取っている。</p>
<p>④人々のくらしと年中行事 (p.66~67)</p> <p>アメリカの人々の休日の過ごし方や年中行事には、どのようなものがあるのでしょうか。 (1時間)</p>	<p>○アメリカの人々の休日の過ごし方や年中行事について、メールでアメリカに住んでいる人に質問をしたり、集めた資料を活用したりして調べる。 ・週末に家族でハイキングやキャンプに出かけたり、野球観戦をしたりするのは、自分と同じ。 ・ハロウィンにはお化けなどの仮装を楽しむらしい。感謝祭やクリスマスには家族や親戚が集まってごちそうを食べる。 ・アメリカでも日本でも人気の食べ物やスポーツはたくさんある。</p> <p>家族で過ごすことなど共通点がある。また、グローバル化によってアメリカの文化は世界にえいきょうを与えている。④</p>	<p>休日の過ごし方や年中行事について、自分たちの様子と比べながら調べさせる。 アメリカの文化が世界に影響を与えていることに気づかせる。</p>	<p>〈技能①〉休日の過ごし方や年中行事について、メールでアメリカに住んでいる人に質問をしたり、集めた資料を活用したりして、特色や違いを読み取っている。</p>	
<p>⑤広い国土と多文化社会 (p.68~69)</p> <p>アメリカには、ほかにどのような特色があり、どのような人々がくらしているのでしょうか。 (1時間)</p>	<p>○アメリカの特色と人々のくらしについて、手紙で質問したり、集めた資料を活用したりして調べる。 ・アメリカは移民が多く、英語だけでなくスペイン語を話す人もたくさんいる。 ・国土が広く、大農場がある。 ・ロサンゼルスには日系人が多く住んでいて、日系人の祭りがある。</p> <p>アメリカは、広い国土に、建国以来、多くの移民を受け入れてきた多文化社会である。⑤</p> <p>○アメリカについて調べてきたことをノートや作文、新聞にまとめよう。 ・学校や人々の様子、仕事や産業の様子について、整理してノートにまとめよう。</p>	<p>広い国土をもつアメリカは、さまざまな人種や民族の人が移住してきた多文化社会であることを、手紙や資料からとらえさせる。</p>	<p>〈知理②〉アメリカは、さまざまな人がくらす多文化社会であり、ともに生きていくために、異なる文化や習慣を尊重し合うことが大切であることを理解している。</p>	

		聞き取り調査を実施できた場合は、そこで得たことを生かしてまとめさせる。	〈思判表〉 アメリカの人々の生活の様子について、学校の様子や産業の様子など、多面的にとらえて適切に表現している。
中国と日本 p. 70～75			
<p>③中国の人々の生活 (p. 70～71)</p> <p>中国のまちや小学校の様子は、どのようなものになっていますか。(1時間)</p>	<p>○中国のまちや小学校の様子について、インタビューをしたり、集めた資料を活用したりして調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・首都北京には、高層ビルや世界文化遺産があつてにぎやか。 ・大都会の中に、古い街並も残っている。 ・ワンさんが通っていた学校では、たくさんの漢字を教えていて、英語の授業もある。 ・「ひとりっ子政策」がある。 ・農村の子どもは、家畜の世話など家の仕事をよく手伝うそうだ。 <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">中国のまちや小学校の様子には、日本と同じ点やちがう点がある。③</p>	<p>収集した資料から、日本との相違点について整理させる。</p> <p>可能ならば、留学生を教室に招待したり、インタビューをしたりできるように設定したい。</p>	<p>〈技能②〉 中国の人々の生活の様子や学校の様子について、インタビューをしたり集めた資料を活用したりして必要な情報を集め、特色を読み取って、まとめている。</p>
<p>④中国の伝統的な文化 (p. 72～73)</p> <p>中国には、どのような文化や行事があるのでしょうか。(1時間)</p>	<p>○中国の文化や行事について、収集した資料を活用して調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仏教は中国から日本に伝わったこと、遣隋使や遣唐使について学習した。 ・中華料理といってもさまざま。 ・漢族のほかに50以上の少数民族がいる。 ・伝統的な行事である春節は日本の正月にあたり、故郷に帰省する人も多い。 ・日本の中華街でも春節の様子がわかる。 ・伝統的な芸能を伝えている人々がいる。 ・世界文化遺産を見に、日本からも観光客が訪れる。 <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">中国の伝統的な行事には、日本と同じ点やちがう点がある。④</p>	<p>第5学年の産業の学習や第6学年の歴史の学習を想起させ、日本との結びつきについて、歴史や文化、人の行き来など、多面的にとらえさせる。</p>	<p>〈思判表②〉 中国との結びつきについて、歴史や文化、人の行き来などを多面的にとらえて、適切に表現している。</p>
<p>⑤経済発展を続ける中国と人々の様子 (p. 74～75)</p> <p>中国の産業の発展によって、人々の生活は、どのように変化したのでしょうか。(1時間)</p>	<p>○産業の発展によって人々の生活はどのように変化したのか、インタビューや資料を活用して調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・急速な発展によって、生活スタイルが変化した。マンションが増えた。 ・公害や労働環境の改善が求められている。 ・経済特区と呼ばれる外国の企業も進出する地区がある。 ・日本との貿易も盛んで、たくさんの商品を中国から輸入している。 ・日中の留学生の活躍が期待されている。 <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">中国は急速な経済発展を続け、日本との結びつきが強まり、また世界から注目をされている。⑤</p> <p>○中国について調べてきたことをノートや作文、新聞にまとめよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調べたことに自分の考えを加えて書こう。 ・留学生のワンさんに教えてもらったことをいかして作文を書きたい。 	<p>経済・産業の発展による生活スタイルの変化や公害など、日本で起こったことを思い出しながら、とらえさせる。</p> <p>聞き取り調査を実施できた場合は、そこで得たことを生かしてまとめさせる。</p>	<p>〈知理①〉 経済発展と中国の人々の生活の変化や、日本との結びつきについて、理解している。</p> <p>〈思判表②〉 ともに生きていくためには異なる文化や習慣を理解し合うことが大切であることを適切に考え、適切に表現している。</p>
韓国と日本 p. 76～81			
<p>⑥韓国の人々の生活 (p. 76～77)</p> <p>韓国の学校の様子、伝統的な行事や習慣は、どのようなものなのでしょうか。(1時間)</p>	<p>○韓国の学校の様子、伝統的な行事や習慣について、インタビューや資料を活用して調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の学校と似ている点がたくさんある。 ・英語とコンピューターの授業がさかん。 ・日本からの観光客も多い。 ・ソルラルという旧正月では、おせち料理のように豪華な料理を食べる。 ・子どもの日があるのも日本と同じ。 <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">韓国の小学校の様子、伝統的な行事や習慣には、日本と同じ点やちがう点がある。③</p>	<p>日本と同じこと、違うことを意識させながら調べさせる。</p>	<p>〈技能②〉 韓国の学校の様子、伝統的な行事や習慣について、インタビューをしたり集めた資料を活用したりして必要な情報を集め、特色を読み取ってまとめている。</p>

<p>④ 韓国の文化と日本との交流 (p. 78~79)</p>	<p>○韓国の文化にはどのような特色があるのか、インタビューや資料を活用して調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主食は米で、日本と同じようにはしやスプーンを使うが、食器の使い方のマナーがちがう。 ・昔は漢字を使っていたけれど、今はハングル文字を使う。 ・儒教の教えが大切にされている。 ・キムチは韓国の代表的な味。 ・日本と韓国は文化的な交流がさかん。 	<p>日本と同じこと、違うことを意識させながら調べさせる。</p> <p>可能ならば留学生を教室に招待したり、インタビューをしたりできるように設定したい。</p>	<p>〈思判表②〉 韓国の文化について、衣食住の視点から多面的にとらえて、ノートや表に適切にまとめて表現している。</p>
<p>韓国文化には、日本と共通するものちがうものがあるが、文化的な交流がさかんである。④</p>			

筆者のコメント

これに対し、日中間では「文化的な交流がさかん」とせず、貿易などの「経済的結びつき」を強調している。

<p>⑤ 産業の発展と南北統一 p. 80~81</p>	<p>○韓国の人々の生活にかかわる産業や政治の特色について、インタビューや資料を活用して調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第二次世界大戦後、朝鮮は韓国と北朝鮮に分かれたが、多くの人が南北統一を願っている。 ・高度経済成長によって、造船、自動車、半導体、コンピューター関連の産業が発展した。 <p>○韓国について調べてきたことをノートや作文、新聞にまとめよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分かったことに自分の考えを加えて新聞を書きたい。 ・インタビューをいかした記事を書きたい。 	<p>第5学年の産業学習や第6学年の歴史学習で学んだことを想起させ、日本とのかわりや相違点をとらえさせる。</p> <p>聞き取り調査を実施できた場合は、そこで得たことを生かしてまとめさせる。</p>	<p>〈知理①〉 人々の生活にかかわる産業や政治の特色について、理解している。</p> <p>〈思判表②〉 ともに生きていくためには、異なる文化や習慣を理解し合うことが大切であることについて考え、適切に表現している。</p>
<p>韓国は、造船、自動車、コンピューター関連の産業がさかんである。北朝鮮と難しい関係が続いているが、多くの人が南北統一を願っている。⑤</p>			

サウジアラビアと日本 p. 82~87

<p>③ 気候に合わせたくらしと宗教 p. 82~83</p>	<p>○サウジアラビアの人々の生活にかかわる気候や宗教には、どのような特色があるのか、資料を活用して調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・砂漠のイメージが強いけれど、雨や雪が降る地域、都市がある。 ・今は定住しているけれど、休みの日には砂漠に遊びに行くことがある。 ・アラビア語を話す。 ・イスラム教が国の宗教で、1日5回お祈りをし、1か月間、日中は食事をとらないラマダーンを行う義務もある。 ・食べ物や食べ方に特色がある。 	<p>収集した資料から、日本の気候との相違、土地の様子、土地の相違、宗教と生活のかわりを読み取らせる。</p>	<p>〈技能②〉 サウジアラビアの気候や宗教の特色について、資料を活用して必要な情報を集め、特色を読み取ってまとめている。</p>
<p>サウジアラビアには多様な気候の地域があり、国教のイスラム教が人々の生活に大きくえいきょうしている。③</p>			

<p>④ サウジアラビアの人々の生活 (p. 84~85)</p>	<p>○サウジアラビアの生活の様子や学校には、どのような特色があるのか、資料を活用して調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昼間は暑いので外出をひかえ、夕方から外出する。 ・男性はトープという白い服、女性はアバヤという黒い服を着て外出する。 ・公共の場では男女の区別がある。 ・小学校は6年間で、算数、英語、アラビア語、コーランの授業は毎日ある。 <p>社会科見学にも行く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上手に詩をつくる人が尊敬される。 ・ラクダのレースが人気らしい。 	<p>日本と同じこと、違うことを意識させながら調べさせる。</p>	<p>〈思判表②〉 サウジアラビアの生活の様子や学校の特色について、気候やイスラム教の教えとのかかわりの視点から、ノートや表に適切にまとめ、表現している。</p>
<p>夕方以降の外出や男女の区別など、気候や宗教に合わせた生活スタイルがあり、服装にも特色がある。また日本の学校と同じこと、ちがうことがある。④</p>			

	<p>⑤石油の国, サウジアラビア (p. 86~87)</p> <p>サウジアラビアの産業と人々の生活には、どのようなかわりがあるのでしょうか。 (1時間)</p>	<p>○サウジアラビアの産業と人々の生活について、インタビューや資料を活用して調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本は、石油をサウジアラビアから最も多く輸入している。 ・サウジアラビアは、石油を輸出して得たお金を教育や福祉に使っている。 ・税金はないが、収入に応じた献金がある。 ・サウジアラビアでは、日本車が輸入され、子どもは日本のアニメをよく見ている。 <p>石油の輸入、自動車の輸出、アニメ文化など、サウジアラビアと日本はつながりが深い。⑤</p> <p>○サウジアラビアについて調べてきたことをカードや作文にまとめよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産業と人々の生活について調べることを通じて、貿易や文化交流の点で日本とかかわりが深いことに気づかせる。 	<p>産業と人々の生活について調べることを通じて、貿易や文化交流の点で日本とつながりが深いことに気づかせる。</p> <p>調べたことを、項目ごとにカードに分りやすく整理させる。</p>	<p>〈知理①〉 サウジアラビアの産業と人々の生活について理解している。</p> <p>〈思判表②〉 ともに生きていくためには、異なる文化や習慣を理解し合うことが大切であることについて考え、適切に表現している。</p>
<p>まとめる</p>	<p>⑥まとめる p. 88~89</p> <p>学習問題について調べてきたことを発表し合い、最後に意見文をつくって発表しよう。 (1時間)</p>	<p>○学習問題について調べてきたことを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・服装にはそれぞれ特色がある。いつも伝統的な服を着ているわけではない。 ・韓国のオンドルなど伝統的な家屋様式があるけれど、開発によって変化している。 <p>○日本と似ているところと、大きくちがうところを表に整理して、意見文を書くための話し合いをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・正月の行事は韓国や中国でもある。 ・サウジアラビアの生活は、宗教のえいきょうが強いことが日本とちがう。 <p>○意見文をつくり、発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本とのつながりの深さは距離に比例するとは限らない。 ・今まで調べたことを整理するとともに、話し合いを通じて、それぞれの国には日本とのつながりがあり、またそれぞれ異なる特色があることに気づかせる。 ・ちがいを受け止めて尊重し合うことが大事だと思う。 <p>世界には日本とつながりの深い国々があり、それぞれに特色ある文化や習慣がある。⑥</p>	<p>今まで調べたことを整理するとともに、話し合いを通じて、それぞれの国には日本とのつながりがあり、またそれぞれ異なる特色があることに気づかせる。</p> <p>それぞれの国の生活の様子を比較した後、意見文を書き、発表会を開くなどして、外国の人々とともに生きていくためには、異なる文化や習慣を理解し合うことが大切であることをとらえ、伝えさせる。</p>	<p>〈思判表②〉 今まで調べたことを比較したり、関連づけたり総合したりして考え、言語に表現している。</p> <p>〈知理①②〉 日本とつながりの深い国には、それぞれに特色ある文化や習慣があることが分かり、異なる文化や習慣を理解し合うことが大切であることが分かっている。</p> <p>〈関意態②〉 文化や習慣の比較を通して、異なる文化を尊重しようとしている。</p>
<p>ひろげる</p>	<p>ほかにもある日本と身近な国や地域を調べよう (p. 90~91)</p>	<p>○調べた4か国以外に、日本と身近な国や地域について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日系の友だちのふるさとのブラジルについて資料館で調べてみよう。 ・親戚がくれたEUのお金のことを調べてみよう。 ・アフリカについて調べてみよう。日本とのつながりはあるのだろうか。 	<p>グローバル化の中で、世界には日本とつながりがある国や地域がたくさんあることに気づかせる。</p>	<p>〈関意態〉 ほかの国や地域の人々の生活の様子に興味・関心をもっている。</p>

『平成27年度用 小学校社会科用 新編「新しい社会 6下」指導計画作成資料』東京書籍、2015年より抜粋。一部を筆者が改変した。

教科書では、結果的に、アメリカ合衆国、中華人民共和国、大韓民国、サウジアラビアが選択される。旧版の教科書では、いきなり、この4か国が選択されるような記述になっていたが⁷、新版の教科書では、この部分を改善し、8か国（他に、オーストラリア、イタリア、ドイツ、タンザニア）から4か国に絞るような記述となっている（「表5」参照）。

具体的には、教科書の見開き頁「④日本とつながりの深い国々」（pp. 60-61。以下、教科書の頁を示す）では、「3年生から6年生までの社会科で出てきた外国を思い出してみよう」という男子児童の絵と吹き出しが書かれており（p. 61）、候補国として8か国から日本にきた事物の写真が提示されている（p. 60）。

表5. 「日本とつながりの深い国々」として教科書に提示されている事物

- | |
|---|
| ①アメリカやオーストラリア産の肉,
②サウジアラビア産の石油,
③イタリア料理のピザ, ④ドイツ製の自動車,
⑤タンザニアから来た象,
⑥ブラジル産のコーヒー豆, ⑦韓国製のスマートフォン,
⑧中国から来た毛筆書写と漢字 |
|---|

北俊夫・佐藤学・吉田伸之ほか38名『新編 新しい社会(6下)』東京書籍, 2015~19年版(新版), p.60の写真のキャプションを筆者がまとめた。

但し、前述の4か国以外のオーストラリア、イタリア、ドイツ、タンザニアに関する、それ以上の情報は一切無い。従って、教員自身が情報収集し、児童の調べ学習に備えなければならない。従って、そのような手間を省くためには、前述の4か国に絞るのが、最も効率的な選択となっている。

次に、教科書(p.61)には、児童が、アメリカ合衆国、中華人民共和国、大韓民国、サウジアラビアの4か国から1か国を容易に選択できるよう、学習内容を比較可能な表と写真で提示している(「表6」参照)。

表6. 教科書に掲載されている4か国の比較表の内容

アメリカ合衆国 ・(経済)輸出相手国第2位(自動車、精密機械など)。 →(写真)輸出される自動車 ・(文化)野球選手が大リーグで活躍。 →(写真)ダルビッシュ投手 ・(歴史)ペリー来航で鎖国終了。	大韓民国 ・(文化)サッカーワールドカップの共同開催。 →(写真)日韓ワールドカップ ・(文化)キムチは日本でも人気。 →(写真)キムチづくり ・(歴史)渡来人が奈良の大仏づくりの技術を伝えた。
中華人民共和国 ・(経済)日本の企業が市場進出。 →(写真)進出する日本企業 ・(文化)横浜や神戸の「中華街」 →(写真)横浜中華街 ・(歴史)遣隋使や遣唐使	サウジアラビア ・(経済)石油輸入国の第一位。 →(写真)製油所 ・(経済)海水を水にする工場建設。 →(写真)海水を水にする工場 ・(文化)イスラム教が国教。

北俊夫・佐藤学・吉田伸之ほか38名『新編 新しい社会(6下)』東京書籍, 2015~19年版(新版), p.61の内容を筆者がまとめた。

特徴として、3つの事項のうち2つの事項に関する資料として写真を掲載している点、「文化」に関する記述が1つ以上ある点が共通ということが挙げられる。逆に言えば、それ以外の事項は4か国が共通のものはない。例えば、「歴史」に関する事項として、アメリカ、中国、韓国と日本との関連性を示しているが、サウジアラビアとの歴史的つながりは

挙げられていない。

さらに、新版の教科書では、見開き2頁を追加し、「調べる国を決めよう」として、児童が、調べる国を選択し易くなるような情報を掲載している。但し、選択肢は前ページの8か国ではなく、アメリカ合衆国、中華人民共和国、大韓民国、サウジアラビアの4か国に絞られ、さらなる4か国の情報(国旗、国旗の意味、首都、面積、人口、主な言語)を提示している(p.62)。

次に注目すべき情報として、「学習計画を立てよう」として、「共通して調べること」、「関心によって調べること」を、それぞれ5項目ずつ列挙している(「表7」参照)。

表7. 「共通して調べること」と「関心によって調べること」

「共通して調べること」 ①服装の特色(伝統的な服と日常の服) ②特色ある料理や食事のマナー ③住居(伝統的な建物や現代的な建物) ④学校の様子や子どもたちの生活 ⑤季節の行事	「関心によって調べること」 ①どんな宗教があるのか ②人気がある世界遺産 ③まちのようす ④子どもの遊びや大人の楽しみ ⑤人々の仕事やさかんな産業
--	--

北俊夫・佐藤学・吉田伸之ほか38名『新編 新しい社会(6下)』東京書籍, 2015~19年版(新版), p.63より筆者が抜粋した(番号は筆者が付した)。

但し、課題として、例えばアメリカに関しては、「①服装の特色(伝統的な服と日常の服)」に関する記載が、教科書に全く無いなど、「共通して調べること」が実行されていない点が挙げられる。

また、教科書の裏表紙には、「表8」の内容の写真とキャプション、漫画のキャラクターの吹き出しによるコメントがあり、ここからも情報を入手できる。教科書の構成上の特徴として、「関連する資料が多く本文に対して説明の追加が必要な構成(資料優位の関係)」となっている証左の1つである。

次に、「表6」、「表8」、「表9」に示されている4か国の学習内容は、前述の『学習指導要領解説』に例示されている「衣食住」、「行事」、「学校生活」、「遊び」、「あいさつ」、「マナー」という項目に従いつつも、国ごとに全ての内容を記載するのではなく、それぞれの国の特徴を教科書執筆者が、あらかじめ「学習の視点」として設定している(次節で取り上げる)。これは、教科書を使用する教員や児童にとって理解しやすい反面、結果的に「望ましい4か国理解」を教科書執筆者が押し付ける危険性も指摘できる。

表 8. 裏表紙にある 4 か国の写真のキャプションと吹き出し

<p>アメリカ合衆国</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ニューヨークのマンハッタン島 ・ナイアガラの滝 ・スーパーボール ・ラッシュモア山にほられたアメリカ大統領の顔 <p>アメリカの有名なものをどのくらい知っていましたか。(ドラミ)</p>	<p>大韓民国</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プサンの港の様子 ・仏国寺 ・野球の試合 ・韓国の電子機器産業 <p>野球やサッカーに人気があるのは、日本と同じだね。(のびた)</p>
<p>中華人民共和国</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高層ビルが並ぶシャンハイ ・紫禁城 ・武術学校 (南部ではカンフー) ・三国志に登場する古戦場 <p>同じ漢字を使う身近な国だし、おなじみのものがほかにもないかな。(しずか)</p>	<p>サウジアラビア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ジッダにあるリゾートホテル ・さかんなサッカー ・雪を見てはしゃぐサウジアラビアの人々 ・キングダムセンター (約300m) <p>雪が降る地域があるなんて、とても意外だね。(ドラえもん)</p>

北俊夫・佐藤学・吉田伸之ほか38名『新編 新しい社会 (6下)』東京書籍, 2015~19年版 (新版), pp. 113-116より筆者が抜粋。ドラえもん等のイラストは省略した。

表 9. 旧版の教科書と新版の教科書の「章立て」の比較 (筆者作成)

・「アメリカと日本」

旧版の章立てと記載頁 (pp. 44-47)

アメリカの人々の生活
世界の大国・アメリカ

新版の章立てと記載頁 (pp. 64-69)

アメリカの学校の様子
人々の暮らしと年中行事
広い国土と多文化社会

※ 下線部が、追加された部分

・「中国と日本」

旧版の章立てと記載頁 (pp. 48-51)

中国の人々の生活
経済発展を続ける中国

新版の章立てと記載頁 (pp. 70-75)

中国の人々の生活
中国の伝統的な文化
経済発展を続ける中国と人々の様子

※ 下線部が、追加された部分

・「韓国と日本」

旧版の章立てと記載頁 (pp. 52-55)

韓国の人々の生活
近い国, 韓国

新版の章立てと記載頁 (pp. 76-81)

韓国の人々の生活
韓国の文化と日本との交流
産業の発展と南北統一

※ 下線部が、追加された部分

・「サウジアラビアと日本」

旧版の章立てと記載頁 (pp. 56-59)

砂漠の国, サウジアラビア
サウジアラビアの人々の生活

新版の章立てと記載頁 (pp. 82-87)

気候に合わせてくらしと宗教
サウジアラビアの人々の生活
石油の国, サウジアラビア

※ 下線部が、追加された部分

※ 各国の記述量は 4 頁から 6 頁へ1.5倍に拡大している。

北俊夫・佐藤学・吉田伸之ほか38名『新しい社会 (3・4下)』[東京書籍, 2010~14年版 (旧版), pp. 44-59, 北俊夫・佐藤学・吉田伸之ほか38名『新編 新しい社会 (6下)』東京書籍, 2015~19年版 (新版), pp. 64-87より筆者が作成した。

(2) 教科書執筆者が意図した4か国の「学習の視点」の比較

本節では、東京書籍版の新旧教科書を比較し考察する。

新版の教科書では、4か国の学習の視点が以下のように異なっている。

(教科書の記載内容の分析から筆者が作成)

- ①グローバル化の中で、現代文化の普遍的モデルを示すアメリカ
- ②歴史、文化、経済など多面的に結び付く隣国の中国
- ③歴史的に日本と文化的交流がさかんで、分断国家としての韓国
- ④産油国とイスラム教の国としてのサウジアラビア

旧版の教科書も、ほぼ同様の学習内容であり、国ごとに多様な側面からの記述は飽きさせないが、前述の表7の「共通して調べること」すら満たしておらず、相互の比較が困難となっている。また、前述したように、「望ましい4か国理解」を教科書執筆者が押し付ける危険性を指摘できる。やはり教科書では、共通の項目について順に記載し、各項目について比較可能にした方がよいだろう。その上で、児童が興味・関心を持った項目をさらに調べ、それぞれの国際理解を深めていく。そのような自由を大切にすべきであろう。

(3) 順次性、配列（シーケンス）の検討

本単元は、本来、4か国から1か国を「選択」して学習することが想定されているが、4か国の全てを学習することも可能なように学習の順次性を決めたと推察される。では、なぜ「アメリカ→中国→韓国→サウジアラビア」という順序に決定したの

うか。以下、順次性（シーケンス）を検討する。

①なぜ、アメリカから学習を始めるのか。

現代文化の普遍的モデルとしてのアメリカを、まず取り上げることで、日本や後から取り上げる国(中国、韓国、サウジアラビア)へのアメリカの影響について理解させるためであろう。

根拠は、資料「世界にえいきょうをあたえるアメリカ」(p.67)の記述内容である。

②なぜ、2番目に中国、3番目に韓国を配置したのか。

仏教、漢方薬、お茶、毛筆書写と漢字、儒教などは、中国から韓国を経て日本に伝わったから、中国→韓国としたものと推察される。

根拠は、pp.72-73(中国の伝統的な文化)、pp.78-79(韓国の文化と日本との交流)の記述内容である。

③なぜ、サウジアラビアが最後に位置付けられるのか。

日本の文化と、最も異なるという判断によるものと推察される。

根拠は、以下の「表10」の下線部分、及び、pp.82-87の記載内容(例:気候、宗教、服装、税金がない)である。

(4) 学習内容のまとめ

以下の「表10」は、教科書p.89の「日本と似ているところと大きくちがうところを表に整理して、意見文を書くための話し合いをしよう」として記載されている表と、●と◆で示した項目は、あらかじめ教科書(新版)に記載されている項目を示す(●と◆は教科書の記載のとおりである)。その他の項目は、教師用指導書に赤字記載されていたものを全て書き出した。この「表10」の記載内容が、本教科書において学ばせたい学習内容といえよう。

表10 「日本と似ているところと大きくちがうところを表に整理して、意見文を書くための話し合いをしよう」(教科書の教師用指導書の記載内容)

国名	日本と似ているところ	大きくちがうところ
アメリカ	<ul style="list-style-type: none"> ●ハンバーガーや野球が好き。 ・クリスマスがある。 ・ジーンズをはく。 ・コンピューターの授業。 ・社会科の学習の仕方。 ・義務教育で教科書が無償。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スクールバスがある。 ・そうじやクラブ活動の時間がない。 ・飛び級ができる。 <p>(p.69の整理を参照。)</p>

中国	<ul style="list-style-type: none"> ●春節という正月の行事がある。 ・おかゆやうどんを食べる。 ・卓球をする。 ・漢字を使う。 ・コンピューターの授業。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆たくさんの民族がいる。 ・朝食におかゆやうどんを屋台で食べる。 ・ひとりっ子政策。 ・飛び級ができる。 <p>(p.75の作文を参照。)</p>
韓国	<ul style="list-style-type: none"> ●子どもの日がある。 ・先祖や年長者を大切にする。 ・学校制度。 ・工業立国。 ・キムチを食べる。 ・ソルラン (旧正月)。 ・コンピューターの授業。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ハングル文字を使う。 ・ごはんをスプーンで食べる。 ・キムチ専用の冷蔵庫がある。 ・チマチョゴリ <p>(p.81の新聞を参照。)</p>
サウジアラビア	<ul style="list-style-type: none"> ・義務教育が9年間。 ・国際支援に積極的。 <p>なぜ共通点が少ないのに、日本とのつながりが深いのか考えさせる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆税がない。 ・イスラム教の教えを学校で学ぶ。 ・男女の区別がはっきりしている。 ・日中外出せず夜外出する人が多い。 ・右手で食事をする。

新編 新しい社会編集委員会・東京書籍株式会社編集部『新編 新しい社会 (6下) 教師用指導書 指導編』東京書籍, 2015~19年版 (新版), p. 89より筆者が抜粋。

※ ●, ◆で示した項目は、あらかじめ教科書 (新版) に記載されている項目を示す。●は「日本と似ているところ」、◆は「日本と大きくちがうところ」を示す。

(5) サウジアラビアを異質な国家として扱うことの危険性

「表10」や「表11」の教科用指導書や教科書の記載内容より、サウジアラビアを、日本との共通点が少ない国 (文化) の代表例として、「なぜ共通点が少ないのに、日本とのつながりが深いのか考えさせる」ための具体例としている。しかし、これは適切だろうか。

表11. 「最後に意見文をつくり、みんなで発表しよう」(下線部: 筆者)

日本とつながりの深い国について	小林たくみ
(略)	
一方で、韓国のとなりである北朝鮮は、すぐに行けるほど近いが、今のところ日本と国交がない。つながりの深さは、日本からの距離だけでなく、歴史・経済・文化などの面から確認することが大切だとわかった。	
そして、その国の人々の生活を考えるときは、気候や宗教により目を向けるべきだ。四つの国の中ではサウジアラビアがとても印象的だった。	
似ているものが多い国とは理解し合うことも難しくなさそうだが、大きくちがう国を相手にするときは、ちがいをちがいとして受け止め、できるだけ尊重し合うことから始めないといけない。	
グローバル化が進む現代では、ちがいを認め合って、共に生きていくことが大切だ。	

北俊夫・佐藤学・吉田伸之ほか38名『新編 新しい社会 (6下)』東京書籍, 2015~19年版 (新版), p. 89より筆者が抜粋 (原文は縦書きである)。

これに対する模範解答は、「文化的な共通点が少なくても、石油という天然資源により、経済的につながりが深いから」と思われるが、「サウジアラビアは、日本と文化的な共通性の少ない異質な国」というマイナスイメージをことさらに助長する危険性があると思われる。改善が求められよう。

教科書では、アメリカ、中国、韓国と比較して、相対的に「日本との共通点が少ない」と言えるに過ぎない。従って、サウジアラビアが「日本と共通点が少ない」国家の代表例とは言えないだろう。経済的に豊かであり、アメリカの影響を受け、生活文化のグローバル化も進み、共通点も増していると考えられるからである。

従って、むしろ「サウジアラビアと日本との共通点は他にないか」という発問を用意すべきではないか。そして、これに対する回答例として、「日本の自動車や日本のアニメの人気の高い」(p. 86「吉田さんの話」)が挙げられよう。

これに対し、例えば、現在の朝鮮民主主義人民共和国 (北朝鮮) は、政治形態も異なり、韓国と比べると、経済的なつながりも浅く、情報統制もあり、生活文化のグローバル化も一部の特建層に偏り、その意味で、サウジアラビアよりも、よほど「日本との共通点が少ない」国とも言える。だが、ここでも「北朝鮮は、日本と文化的にも経済的にも共通点の少ない異質な国」というレッテルを貼るだけでなく、韓国と同様、歴史的に日本との共通点も多く、

つながりが深いことにも着目させる必要があると考えられる。

(6) 『教師用指導書』の「板書例」の記載内容の問題点

『教師用指導書』の「板書例」として、〈表や意見文からの気づき〉として、「アジアの国は日本との共通点が多い」という記載が、『教師用指導書』にあるが、不適切である（『教師用指導書』, p. 89「板書例」）。

第一に、「アメリカと日本との共通点も多い」からである。

第二に、この記述は「中東諸国のサウジアラビアは日本との共通点が少ない」ことを言外に言おうとしているようである。しかし、サウジアラビアも西アジアの国である。従って、「アジアの国のサウジアラビアは日本との共通点が多い」となってしまう。従って、「東アジアの国やアメリカは日本との共通点が多い」と訂正すべきであろう。

但し、このように訂正し、サウジアラビアを共通性の少ない異質な国とみなすことは、前述したように危険と思われる。

5. デジタル教科書所収の動画資料の分析

特に、国際理解学習においては、動画資料は、当該国の疑似体験の効果を持つ。新版のデジタル教科書には、旧版には無かった待望の動画資料が新たに付加された。そこで、本章では、動画資料に関する分析を行なう。

表12に、「デジタル教科書の動画資料のリストと内容（アメリカ合衆国のみ）」をまとめた。表に記したように、1つ1つの動画は、教科書の写真の箇所に「45秒から2分14秒以内」にコンパクトにまとめられているが、教科書の写真だけでは分からない多くの情報が含まれている。

例えば、アメリカ合衆国の「授業の様子」の教科書の写真では、シアトルに暮らすクロエさんが通う

パークサイド小学校のパソコン室での一斉授業の風景を示すのみであるが、動画は、「読書」の授業と「ディスカッション」の授業の内容に関する説明があり、日本との違いまで理解できるような内容である。

また、「大リーグで活やくする日本人投手」では、教科書の写真が、テキサスレンジャーズのダルビッシュ投手であるのに対し、動画の内容は、シアトルマリナーズの本拠地セーフコ・フィールドと、球場の壁にあるかつて所属したイチロー選手の写真と公式ショップにあった岩隈投手の商品についての説明であり、両者は全く食い違っている。

アメリカ合衆国の動画資料（計18分39秒）を基に、動画資料の長所を述べよう。それは、シアトル在住のクロアさん一家を取材し、一連の動画を作成していることより、あたかもホームステイしているかのように児童が疑似体験的に情報を入手できる点であり、大変効果的である（但し、p. 66では「シアトルのメグさん」とあるが、動画で扱われているのはクロエさんである。このような写真と動画資料との食い違いは、時々見られる）。

一方、課題は、動画を見るだけで、あたかもその国のことを全て学んだような錯覚に陥ってしまう危険があることである。例えば、米国では、多文化主義に反するような、2001年「9.11テロ」以降のイスラム教徒への権利侵害や、白人警官による黒人射殺等の問題は全く扱われていない。また、中国では、深刻な大気汚染問題は全く扱われていない。韓国では、従軍慰安婦問題や少女像の設置等の問題等は全く扱われていない。サウジアラビアでの女性の権利制限に関してp. 84では、「男女の区別」の例として「女性が車を運転することは認められていない」（さらに、教師用指導書の同頁では、「ただし、家族（男性の親族）同伴のときに限り、砂漠でバギーや自転車に乗ることが許されていた（2013年）」と補足あり）と書かれているが、それらを示す動画は皆無である。すなわち、動画資料は、ごく一部の情報を切り取ったに過ぎず、児童が「一を知って十を知った」つもりになるのは、大変危険なのである。

表12. デジタル教科書の動画資料のリストと内容（筆者作成）

※ 写真をクリックすると動画スタートする（全ての頁や写真に動画がリンクされている訳ではない）。
 ※ 下線部（筆者による）は、写真以上の動画と音声でしか得られない情報を示す。

u003c/div>

1. アメリカ合衆国（計18分39秒）		
(1) アメリカの学校の様子（pp. 64-65）		
①朝食の様子	1分3秒	・シアトルに住む小学6年生クロエさん一家の朝食。 ・朝、キッチンで母親がホットケーキを焼いている。

— 77 —

		<ul style="list-style-type: none"> ・クロエさんは野菜を切り、自分の手で弁当を作る。 ・朝食はホットケーキの他、イチゴや牛乳など。 ・家族そろって会話をしながら朝食を摂るのが普通。
②スクールバスでの通学	1分19秒	<ul style="list-style-type: none"> ・通学方法は様々。 ・スクールバスが何台も走り、コースが決まっている。 ・座席は自由。友達と会話して過ごす。
③忠誠のちかい	45秒	<ul style="list-style-type: none"> ・パークサイド小学校の外観と掲揚柱の国旗。 ・「忠誠のちかい」を話す児童との文章の掲示。 ・多民族国家を1つにまとめるために実施している。
④武術の練習 (写真は、テコンドーらしき武術の練習)	1分55秒	<ul style="list-style-type: none"> ・昼食は、教室ではなくランチルームで食べる。 ・クロエさんは弁当を食べる。給食を食べる人もいる。 (給食のメニューは人それぞれ) ・放課後は、思い思いの時間を過ごす。クロエさんの父親は、ロボットクラブの講師を務める。ロボットを動かすプログラムをパソコンで作成し動かすという試行錯誤を繰り返し、問題解決を図る。(写真のテコンドーらしき動画は無し。)
⑤授業の様子 (写真は、パソコン室での一斉授業の風景)	1分35秒	<ul style="list-style-type: none"> ・「読書」の授業では、ただ本を読むだけではなく、グループごとに1冊の本を取り上げ、レポートを作成。 ・米国の学校では、授業に積極的にコンピューターを取り入れ、情報検索やプレゼンテーションの方法を学ぶ。皆で意見を出し合い、読書レポート完成。 ・「ディスカッション」の授業では、クラスで起きたある問題について話し合う。 ・米国の学校では、自分の意見を言う機会が多い。 ・最後に、まとめ役の児童が意見をまとめ、児童たち自身で見いだした解決策を発表。(写真の、パソコン室での授業風景の動画は無し。)
⑥ホームパーティー (みんなで一緒に食事)	1分14秒	<ul style="list-style-type: none"> ・帰宅後、月に1度のホームパーティー。クロエさんの家に友達と家族が集まった。 ・クロエさんの母親はピザやチーズを準備。 ・クロエさんの父親はバーベキューを焼く。 ・大人も子どもも料理と会話を楽しむ。 ・週末に多くの家庭でホームパーティーを実施。
(2) 人々のくらしと年中行事 (pp. 66-67)		
①大リーグで活やくする日本人投手(テキサスレンジャーズのダルビッシュ投手)	1分15秒	<ul style="list-style-type: none"> ・シアトルマリナーズの本拠地セーフコ・フィールドと、球場の壁にあるかつて所属したイチロー選手の写真。公式ショップに岩隈投手の商品。
②飛行機をつくる工場	1分15秒	<ul style="list-style-type: none"> ・ボーイング社のシアトル工場。 ・燃費がよく航続距離の長い最新機種。 ・日本企業が開発したハイテク素材も多く使用。 ・ボーイング社はグローバルな企業の1つ。
③レーニア山、グランドキャニオン	1分31秒	<ul style="list-style-type: none"> ・アメリカ西海岸ワシントン州にあるレーニア山(4392m、地図も表示)。日系人はタコマ富士と呼ぶ。 ・ふもとの森林地帯は国立公園として保護。原生林と草原が広がり、毎年、多くの人を訪れる。 ・アメリカ西部アリゾナ州にあるグランドキャニオン(地図も表示)。コロラド川が長い年月をかけて高原を削ってできた。 ・1979年、世界自然遺産に登録された代表的観光地。
④ハロウィン	1分47秒	<ul style="list-style-type: none"> ・10月31日、子どもたちが楽しみにするハロウィン。 ・秋の収穫を祝い、悪霊を追い払う古代ヨーロッパの祭りが起源。 ・化粧室では、クロエさんが友達と仮装の化粧中。 ・ハロウィンでは昔の名残で、子どもたちが悪霊や魔女の仮装をする。 ・町に繰り出し「トリック・オア・トリート!(お菓子をくれないといたずらするよ!)と各家を訪問。 各家はお菓子をたくさん用意している。 ・ハロウィンは、子どもたちが主役の楽しい行事。

(3) 広い国土と多文化社会 (pp. 68-69)			
①中央部の大農場	1分22秒	<ul style="list-style-type: none"> ・アメリカ中西部の穀倉地帯。大規模農業がさかん。 ・トウモロコシ、小麦、大豆、綿花等を大量生産し輸出。 ・トラクターやコンバインも大型である。 ・種や農薬は飛行機で撒きます。 ・広大な畑を少ない労働力で経営するために機械化。 ・日本を始め、多くの国が米国から農作物を輸入。 	
②来日したアメリカの大統領 (オバマ大統領)	1分14秒	<ul style="list-style-type: none"> ・米国は建国以来、多くの移民を受け入れてきた。 ・グローバル化が進み、より多文化化が進んでいる。その象徴が第44代オバマ大統領である。ハワイ生まれで父親がケニア出身。母親がカンザス州出身。幼い頃はインドネシアで暮らす等、様々な文化と接しながら育った。2009年、大統領に就任。 ・初のアフリカ系大統領。 ・オバマ大統領は、核兵器を減らす取り組みが評価され、2009年、ノーベル平和賞を受賞。 	
③ロサンゼルスと日系人	1分24秒	<ul style="list-style-type: none"> ・地図を表示 (ロサンゼルス市の位置)。 ・ロサンゼルス市中心のリトルトーキョーは日本から移住した人々が建設した。 ・日本関連の店が並び、日本語の看板が並ぶ。 ・日本人が移住したのは19世紀末。次第にリトルトーキョーができていった。 ・第二次世界大戦時は、敵と見られて苦勞した。 ・現在は、四世や五世が育ち、アメリカ社会で活躍。 ・「全米日系人博物館」の映像。 ・毎年、8月には二世週祭というイベント実施 (パレードの模様)。 ・仙台市の七夕祭の協力で、七夕飾りも登場。 ・宮城県の高校生も参加 (踊り)。 ・リトルトーキョーは日系人の心の故郷とも言われる。 	
2. 中華人民共和国 (計31分15秒)			
(1) 中国の人々の生活 (pp. 70-71)			
①ベキンのまちの様子	1分43秒	⑤下校後の様子	2分3秒
②古い建物が残る路地	2分1秒	⑥北京に住む李さんの話	2分3秒
③食事の様子	1分31秒	⑦給食、卓球で遊ぶ子どもたち	1分20秒
④授業の様子	2分		
(2) 中国の伝統的な文化 (pp. 72-73)			
①デパートのお茶専門店	1分22秒	⑤春節の様子 (横浜市)	1分45秒
②伝統楽器を用いた演奏とおどり (京劇)	1分49秒	⑥春節のごちそう	1分56秒
③春節の様子 (ベキン) ①	2分1秒	⑦世界文化遺産の万里の長城	1分23秒
④春節の様子 (ベキン) ②	2分2秒		
(3) 経済発展を続ける中国と人々の様子 (pp. 74-75)			
①オリンピックのメインスタジアム、開会式の様子	1分15秒	③ベキンに住む李さん夫妻の話	2分14秒
②若者が集まるベキンのシータン地区	1分10秒	④経済技術開発区の一つ、シェンチェン	1分37秒
3. 大韓民国 (計18分25秒)			
(1) 韓国の人々の生活 (pp. 76-77)			
①韓国の小学校の授業の様子	1分56秒	④韓国の旧正月①	1分45秒
②活気あふれるソウルのミョンドン地区	57秒	⑤韓国の旧正月②	57秒
③韓国に住むジョンさんの話	1分21秒	⑥韓国式サウナ	1分13秒
(2) 韓国の文化と日本との交流 (pp. 78-79)			
①伝統的な礼儀作法	2分1秒	④キムチづくり	1分39秒
②伝統的な衣装を身につけた家族	51秒	⑤韓国の家族の食事の様子	1分11秒
③韓国のチェジュ島で開かれた海女祝祭	1分18秒		

(3) 産業の発展と南北統一 (pp. 80-81)			
①ソウルのまちの夜景	1分54秒	③韓国の造船所	44秒
②留学生のキムさんのお話	38秒		
4. サウジアラビア (計15分23秒)			
(1) 気候に合わせた暮らしと宗教 (pp. 82-83)			
①イスラム教の聖地メッカ	1分20秒	④食事の様子	1分58秒
②ジッダのまちと人々の様子	1分59秒	⑤ルブアルハリ砂漠	1分6秒
③ジッダでガイドを営むラディンさんの話	1分17秒		
(2) サウジアラビアの人々の生活 (pp. 84-85)			
①ショッピングセンターでの買い物	1分38秒	③サウジアラビアの学校	1分31秒
②砂漠で遊ぶ	1分5秒	④ジッダのオマーさんの話	1分1秒
(3) 石油の国, サウジアラビア (pp. 86-87)			
①サウジアラビアの石油産業と人々の暮らし	1分16秒	②マダイン・サーレハ (ナバタイ人の都市遺跡)	1分12秒

東京書籍『指導者用デジタル教科書 新編 新しい社会 (6下)』東京書籍, 2015~19年版 (新版) の動画資料を筆者がまとめた, 紙幅の関係で, アメリカ合衆国以外は内容項目についてのみ記載した。

6. おわりに

本小稿では, 現在, 日本で最も多く使用されている代表的教科書である『新編 新しい社会科3・4下』(東京書籍)を取り上げ, 動画内容を含めた内容分析を行い, 小学校社会科第6学年国際理解学習の現状と課題の解明を試みた。

具体的に教科書では, アメリカ合衆国, 中国, 韓国, サウジアラビアの4か国を選択し, さらにそこから1か国を各児童に選択させ, 調査・発表学習を行うことを想定している。教科書(動画資料を含む)の情報は, 新版の方が旧版よりも量的に充実しており, 日本の文化との共通性と相違点を十分に学習可能な内容である。但し, 各国の記載の視点と内容が異なるため比較が困難である。

課題として, 中国と韓国は, 共に東アジアの日本の隣国として, 国選択が「特定の地域」に偏る傾向があること, サウジアラビアの「男女の区別」を尊重すべき文化とみるのか, 女性差別とみるのが論点であることを提示する等, 注目すべき内容を含む反面(動画資料には含まれていないが), ことさらサウジアラビアと日本のちがいを強調するような記述が課題であることを指摘した。

最後に, アメリカ合衆国, 中国, 韓国, サウジアラビアの4か国の文化・歴史等の中で「教科書があえて触れていない事実」を記載しておく(動画資料の箇所で記した以外)。

・アメリカ, 中国と戦争をしたという歴史(アメリカに関しては, 日系人を扱った教科書 p.69で「第二次世界大戦のときには, 日系人は, アメリカの敵として見られ, とても苦勞しました」と少し触れて

いるが, 肝心の「どんな苦勞をしたのか」に関する記述は無く, 日系人の強制収容や軍では日系人部隊が激戦地に派遣されたこと等の話も載っていない。

・中国の政治の特殊性(社会主義政権)に, あえて触れない。

・韓国の政治や, 韓国が昔, 日本の植民地であったことに, ほとんど触れない[「南北統一」の記述の中で, 「日本の植民地支配が終わった1945年」(教 p.81)と書かれているのみで, 日本の植民地支配の内容は書かれていない]。従って, 従軍慰安婦問題や, 韓国が竹島(独島)を実効支配している問題についても触れない。

・韓国の宗教(キリスト教の影響)については触れていない。

このように, 「触れない事実」が少なくないということは, 逆に, 「触れさせたい事実」だけを抽出している傾向があるといえよう。それは, ステレオタイプを助長する恐れもあり危険である。

この課題を乗り越えるためには, 「教科書があえて触れていない事実」を教員が示し, 児童の調査学習によって明らかにできるように支援することである。教員の力量が問われるのである。

今後の課題は, 紙幅の関係でできなかった, 他の3社の教科書記述や, デジタル教科書における動画資料の比較分析を行ない, 各教科書の国際理解学習の内容と構成原理を解明することである。

〔註〕

¹ 例えば, 安野雄一(大阪教育大学附属平野小学校)「地理的分野と経済的分野を繋ぐアクティブラー

ニングの構想-TPPに対する価値判断授業及び課題解決学習を通して-」経済教育学会『第32回経済教育学会全国大会研究報告要旨集』2016年, pp. 24-25。

- ² a : 岡崎均「小学校社会科教科書の構成の解明と課題-メディア分析による構成分析とデジタル化への展望」社会系教科教育学会『社会系教科教育学研究』第25号, 2013年, p. 61。 b : 岡崎均「社会科教科書のデジタル化に関する基礎的研究-メディア分析による教科書の構造の解明と課題」兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科『教育実践学論集』14巻, 2013年, p. 112は, ほぼ論文 a と同一の表現であるが, 「デジタル教科書が開発され市販されている」という部分のみが「教科書のデジタル化が為されている」と表現されている。

- ³ 岡崎, 同上論文, 2013a, p. 69。

- ⁴ 文部科学省のまとめによれば, 2015 (平成27) ~ 2018 (平成30) 年度の小学校社会科教科書の市場占有率は, 東京書籍 [53.8% (2011~14年度の前回採択時52.6%)], 教育出版 [27.7% (前回採択時26.1%)], 日本文教出版 [18.0% (前回採択時は2種類発行し, 計18.5%)], 光村図書 [0.6% (前回採択時2.8%)] である。「前年度比0.7%減の6254万冊-15年度小学校教科書採択状況-文科省まとめ」共同通信社『内外教育』6387 (2015年1月16日)号, pp. 6-8。

- ⁵ 但し, 「文化相対主義」に対しては, 「人権侵害的な文化を尊重できるか」という難問が提出されている。例えば, 女性差別的な文化的慣行を尊重しうるか, といった問題である。小学校社会科教科書においても, そのような具体例として, サウジアラビアの「男女の区別」や, 女性が単独で自動車を運転することが認められない事例が挙げられている。北俊夫・佐藤学・吉田伸之ほか38名『新編 新しい社会 (6下)』東京書籍, 2015~19年版 (新版), p. 84。

では, このような問題をいかに扱うべきか。教科書の同頁は, 次のように記載している。「(イスラム教の下で女性の行動が制限されていることに対し), これについて, 女性の権利がうばわれていると考える人と, 宗教と生活が密接に関連している社会では当然であると考えの人がいて, 議論がなされています」。つまり, 論点として提示するのである。

では, 他に方法はないか。これに関し, 異文化

のみならず自文化をも「学び直し」, 「再解釈」を図る「動態的な文化相対主義」が, 提唱されている。例えば, 自文化における女性の社会進出や平均賃金における格差について自覚するならば, 私たちは, 一方的に異文化を批判する資格があるのか再考せざるを得なくなるだろう。

松井克行「文化相対主義」日本国際理解教育学会編著『現代国際理解教育事典』明石書店, 2012年, p. 29参照。

- ⁶ 東京書籍 HP (<https://ten.tokyo-shoseki.co.jp/text/shou/keikaku/shakai.htm>) 2016年12月27日最終閲覧。

- ⁷ 北俊夫・佐藤学・吉田伸之ほか38名『新しい社会 (3・4下)』〔東京書籍, 2010~14年版 (旧版), pp. 42-43。〕

